

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第19号】
発行人 三寺勝美
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026) 238-4370



学部の発展と共に 信州大学の発展を願う同窓会へ

同窓会会長 三寺勝美

九五〇〇余名の同窓会員の皆様に、第十九号の会報をお届けいたします。

昭和六十二年八月十一日に発足した教育学部同窓会も十八年の歳月が過ぎ去りました。

平成十六年四月一日には、「国立信州大学教育学部」がなくなり、「国立大学法人信州大学教育学部」に生まれ変わりました。同時に、「信州大学同窓会連合会」が立ち上がりました。

各学部は、学部独自の経営を行うのではなく、信州大学という全体組織の中で運営されることになりました。

私たち同窓会員は、教育学部の発展を願うと同時に、信州大学自体の発展を願う必然性に迫られております。

- ① 人文学部同窓会
- ② 経済学部同窓会
- ③ 理学部同窓会
- ④ 文学部同窓会
- ⑤ 医学部同窓会
- ⑥ 工学部同窓会
- ⑦ 農学部同窓会
- ⑧ 繊維学部同窓会
- ⑨ 医学部保健学科

同窓会⑩教育学部同窓会の計十個の同窓会代表者が会合を重ね、信州大学への具体的な支援のあり方を検討しております。

独立法人として歩みだした信州大学は、時として多くの課題に直面し苦渋の選択を迫られる状況もあるものと思えます。六年間の「中期目標」「中期計画」が実を結び成果を上げることが出来ますよう私たち会員全員が心を寄せていきたいと思えます。

同時に、教育学部と教育学部同窓会の発展を強く願っていかなくてはなりません。

母校を思う心を常に持ち続けておられるにもかかわらず、「終身会費二万円」を納入しておられない会員もあるとお聞きいたします。

各地区の理事の役員から、この会報と共に終身会費振込み用紙が送付されているものと思えます。

信州大学の発展と母校の発展を願う気持ちの一端を示して頂けることあわせてお願い申し上げます。

信州大学同窓会連合会報告

同窓会副会長 玉川隆雄

去る五月二十六日に開かれた「第二回信州大学同窓会連合会役員会」の概略を報告いたします。

まず、同窓会連合会代表の窪田貞喜氏（医学部松医会）と大学理事の藤沢謙一郎氏から挨拶がありました。お二人の挨拶の要旨は次の通りです。

窪田氏「法人化されて一年二ヶ月が経過した。うかうかしていると大学が消えてしまいかねない。大学をサポートしていかねばならない。」

藤沢氏「法人化以来、次々と予想しなかったことが起きてきた。その場かぎりの対応ではなく、どうやって信州大学を存続させていくか、という視点で対応していかねばならないと考えている。」

そのあと、協議となりましたが、「信州大学同窓会連合会」の運営資金として各学部同窓会から拠出する金額が主な議題でした。

まず拠出金の使途が論点になりました。学部によって「同窓会連合会」のあり方についての考えも異なり、いずれは現在の「(学部)同窓会連合会」から「信州大学同窓会」にしていきたいという立場の意見もありますし、現在の「各学部同窓会」のゆるやかな連合体でよい」とする立場の意見もあります。

どの立場から考えるかによって、同窓会連合会で必要とする運営資金の使途や必要額に大きな開きがありますので、さまざまな意見が出されましたが、その結果、使途は通信費と役員の旅費程度でよいということになり、各学部同窓会は、七万円ずつ拠出するということでまとまりました。

そして、この拠出金の件が、六月十二日に開かれた平成十七年度第一回教育学部同窓会理事会で承認されましたことをつけ加えて、報告いたします。

第十七回 同窓会 通常総会 報告

平成十六年度の通常総会は、定例の八月十一日(水)、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、三十八名の出席者を得て開催された。

徳嵩雄司幹事の進行のもと、柳初美副会長の開会宣言、三寺勝美会長の開会挨拶に続いて、議長団に大道忠・嶺豊彦、議事録署名人に西村安行・小田切澄男の各氏を選任、書記に上條厚・酒井英樹の各氏を任命して議事に入り、次の三議案が審議された。

○第一号議案

平成十五年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認に関する件

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十五年度の事業について、中村浩志幹事より平成十五年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がなされ、また清水厚実監事より「適正に処理されている」との会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

○第二号議案

平成十六年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認に関する件

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より、平成十六年度事業計画、中村浩志幹事より平成十六年度歳入・歳出予算書(案)についての説明があり、原案どおり全員一致で承認された。

一、同窓会報「第十八号」発行、会員・入会者への発送

二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助

三、学部支援 教育学部・大学院充実にむけての援

助

四、組織充実 支部組織の強化、他

五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」の推進、総会のあり方・基本財産の運用、他

○第三号議案

役員交代に関する件

三寺勝美会長より清水美和子理事の辞任承認について提案され、全員一致でこれを承認した。三寺勝



記念講演会 渡邊時夫氏



第17回同窓会通常総会 会長挨拶

平成15年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成15年4月1日
至 平成16年3月31日

歳入合計額 6,069,320円也
歳出合計額 5,435,154円也
差引残額 634,166円也 16年度へ繰越

歳入の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	479,238	479,238	0	
2 会費	5,900,000	5,580,000	△320,000	279名入金
3 雑収入	30,000	10,082	△19,918	利子・御祝儀
歳入合計	6,409,238	6,069,320	△339,918	

歳出の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	600,000	319,667	△280,333	総会・役員会等
2 事業費	1,080,000	1,012,866	△67,134	会報・学部後援等
3 事務費	2,225,000	2,197,401	△27,559	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,806,000	1,806,000	0	雇用費等
5 雑費	140,000	99,220	△40,780	学部謝礼・御祝儀等
6 予備費	558,238	0	△558,238	
歳出合計	6,409,238	5,435,154	△974,084	

美会長より酒井英樹会員を理事に推薦、全員一致でこれを承認した。議事終了後、臨席の赤羽貞幸学部長より祝辞をいただき、傳田典順副会長の閉会宣言で総会を終了した。総会に引き続いて、清泉女学院大学教授・人間学部長(信州大学教育学部名誉教授)の渡邊時夫氏による記念講演会が開催された。「英語活動の小学校教科化を考える」と題して、日本の小学校英語活動実践の実態や英語教育の展望について講演いただいた。

ご挨拶

教育学部長

赤羽貞幸



同窓会ならびに同窓会員の皆様には、日頃教育学部の教育活動に深いご理解を賜り、ご支援ご協力をいただいておりますこと深く感謝いたします。

大学および学部は法人化二年目を迎え、この一年間に多くの改革を試み大学の運営や組織が大きく変わってきました。しかし、まだまだ制度的な不備や内容の充実など様々な課題が残されており、今年一年の移行期をへて解決しなくてはならない課題も多く、社会に公表した中期計画の実施も次第に現実の課題となり、教職員の意識も変化してきました。

教育学部でも今年四月から、新しい形の執行組織である「学部運営会議」が学部長のもとに作られました。学部運営会議は、「学部長」のほかに「副学部長」三名、「学部長補佐」三名、「附属学校園長代表」の八名からなる会議です。学部の運営も執行部体制が明瞭となりましたので、この学部運営会議を軸にして、責任ある効率的な運営ができ、学部の教育や研究をより一層活性化できるような環境づくり・条件づくりを心がけていきたいと思っております。

教育面では、学部運営会議のもとに「教育課程委員会」ができ、最も大事な学生の教育に関わるカリキュラム全体について目を光らせていくことになりました。この委員会の下には、新たに臨床経験科目の体系化を推進する組織として「臨床教育推進室」が設けられ、教育実習に関連する臨床経験科目が体系的、組織的に実施されます。この臨床経験科目は、教育学部の大きな特色であり、今まで以上に教育効果を上げ質の高い教員養成へつなげる大きな力になると期待を賭けております。

また、信州大学では平成十六年に「環境マインドをもつ人材の育成」大学支援プログラム(GP)が採択され、このプログラムが全学で実施されることになりました。教育学部でもこの主旨を積極的に受けとめ、今年度の大きな課題として取り組むこととなりました。

本学部にとつての第一の目的は「環境マインドをもつ教員」を養成する教育システムやカリキュラムを構築し、その教員を地域社会に送り出すことです。第二には、その教員養成の過程で教職員や学生が一体となり、本学部キャンパスを「エコキャンパス」に作り上げる日常活動を通して環境マインドを高め、体で体得することであり、具体的には、この活動を通して学部が「環境 ISO14001」の認証取得をめざします。

一方、この一年の間に教員養成系の学部を取り巻く状況も、大きく変化してきました。最も大きな変化は、これまでの教員養成の学生定員を抑制してきた体制から、抑制の枠が取り外されようとしております。これまでの統合・再編の波は大きく変わろうとしています。

また、国の義務教育改革と関連し、制度的にもさまざまな教育改革が行われつつあります。我々の身近では、「専門職大学院」の設置、教員養成の学生定員の増加、「教員養成推進プログラム」等の課題が目前に控えております。これらの課題は、これまで学部で検討してきました「教育学研究科(大学院修士課程)」の改革、新課程の将来計画とも密接に関連しており、目先のことからわれないで、学部の長期的な展望をふまえながらの将来計画が必要と

考えております。

教職への就職状況も全国的には、年々新規採用数が増加する傾向が顕著となり、学生にとっては好ましい状況が生まれつつあります。しかし、まだまだ新規採用は厳しい状況が続いており、教員養成の質を高めるための工夫を試み力量ある卒業生を育てることが就職率を高めることにつながっていくことは確かです。

教育学部のおかれた状況にはまだまだ厳しいものがありますが、同窓会の先輩方のご支援を頼りに、学部が発展に向けて努力する覚悟であります。より一層のご教示ご指導を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成十六年度～十七年度新転任教員】
橋本政晴先生(スポーツ科学教育講座)

日本女子大学より新任

金子史彦先生(言語教育講座)

金城学院大学より新任

【平成十六年度転退職教員】

藤沢謙一郎先生(スポーツ科学教育講座)

昭和五〇年四月着任、定年退職

野口宗雄先生(教育学講座)

昭和五十二年五月着任、定年退職

谷本泰子先生(言語教育講座)

昭和六十一年五月着任、定年退職

※なお、藤沢謙一郎先生は、信州大学理事として、本学の運営に引き続き携わっております。

同窓会情報

信州大学大学院教育学研究科十五年

信州大学教育学部同窓会の会員の皆様には、周知のこととは思いますが、この会員は総じて教育学部卒業生のみではなく、大学院教育学研究科（修士課程）の終了生も含まれております。当研究科は平成三年に発足し、本年度で十五年目を迎えることとなります。学部卒業生の会員の皆様、とりわけ現職教員の中堅世代の方々に大学院の現況について情報提供したいと思っております。今後、大学院での研究希望をお持ちの先生方への参考になればと考えます。

信州大学大学院教育学研究科は以下の表のように二専攻・十二専修から構成されております。募集人員は表記の通りですが、毎年、長野県教育委員会（義務教育課・高校教育課）から十数名の先生方が派遣教員として学ばれております。

派遣教員の場合、大学院二年目は現職復帰しながらの修士論文作成への取り組みということで、忙しい期間となりますが、これまで多くの先生方がチャレンジされ、平成三年から十七年までの十五年間で総勢二二四名の現職教員が入学されており、このうちの半数以上の一二五名が信州大学教育学部の卒業生です。

入学試験は、「外国語」（現職教員は「小論文」で代替できます）、「口述試験」、「専門科目（必修・選択）」となっております。毎年九月上旬が出願期間で十月に入学試験が行われております（県教委派遣の出願・選抜は初夏の頃より実施されています）。なお、大学院に入学し、所定の単位を習得しますと、既得の教員一種免許状は「専修免許状」に更新されます。

信州大学大学院教育学研究科専攻・専修構成

専攻	専修	募集人員	分野
学校教育	学校教育	5名	教育哲学、教育思想史、道德教育、教育方法学、教育課程学、教育工学、教育社会学、教師教育学、教育心理学、発達心理学、障害児教育、障害児心理、障害児病理、幼児心理
	臨床心理学	3名	臨床心理学、心理査定、心理面接、心理療法、学校カウンセリング
教科教育	国語教育	3名	国語科教育、国語学、国文学、書道
	社会科教育	4名	社会科教育、歴史学、地理学、政治学、社会学・文化人類学、哲学、宗教学
	数学教育	3名	数学科教育、代数学、幾何学、解析学
	理科教育	4名	理科教育、物理学、化学、生物学、地学
	音楽教育	3名	音楽科教育、声楽、器楽、作曲・指揮法、音楽学
	美術教育	3名	美術科教育、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史
	保健体育	3名	保健体育科教育、体育学、運動学、学校保健
	技術教育	3名	技術科教育、電気、情報、機械、金属工学
	家政教育	3名	家庭科教育、食物学、被服学、住居学、保育学、家政一般
英語教育	3名	英語科教育、英語学、英米文学	
計		40名	

注1) 学生募集人員の約3分の1は、現職教員等をもって充てます。

現職教員とは、現職教員及び教育関係諸機関勤務者を指し、常勤の職で、入学時まで3年以上の教員の経歴を有する者をいいます。

注2) 臨床心理学専修は日本臨床心理士資格認定協会の認定する「第1種指定大学院」です。

大学院に学んで

長野市立裾花中学校教諭
(第三十五回生・大学院第十一回生 保健体育専修
小笠原重光

平成十四年から十五年度に大学院において研修を
させていただく機会を得た。「授業」が教師の本分
でありながら、なかなか教材研究に没頭することが
難しい現実を鑑みたととき、「大学院において研修を
積んでみたい」と願うようになったのである。

入学以前に掲げていた研究課題は、学習指導要領
において体育の内容として新しく取り上げられた
「体ほぐしの運動」について、そのねらいに則した
指導法を探究することであった。しかし、多くの先
生方からご指導をいただき、学習・研究を進めてい
く中で、「体育」という教科について、我が国及び
世界的な動向を見据えながら、今後のあり方を考え
ていく必要性を感じるようになっていったのである。
最終的には、教科教育の立場に立ち、球技領域の
カリキュラムとその実践的課題についての問題意識
を明瞭にしなから、「フラッグフットボール」とい
う特定の素材を取り上げた授業に焦点化した研究課
題に取り組むことになったが、より広い視野からの
ものの方・考え方は大学院に進学しなければ到底
身につけることはできなかつたであろうと感じてい
る。

大学院において出会うことのできた仲間とは、授
業について、そして教師像について継続的に語り合
ったり、情報の交流を重ねながら親交を深めてい
る。特に、大変お世話になった指導教員の岩田助教
授には、現在も引き続き授業づくりに関わってアイ
ディアをいただいたり、指導・助言を受けている。
大学院への入学は研修の契機であり、これからは
本当の研修であると感じている。

教育学部同窓会・研究補助事業について

同窓会報の前号でお知らせいたしましたように、
平成十五年より、教育学部同窓会の研究助成事業
の一環として、二十一世紀の教育を指向した、会員
の日常的教育研究・教育実践活動を支援していく
「研究補助」制度をスタートさせております。この
趣旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切に合
い、自らの授業改善に努めよう、②専門職としての
教師自らの教育研究・教育実践を磨き合おう、③教
育の振興・改善をととも共有しよう、というところ
にあります。

対象者は、信州大学教育学部同窓会会員(同窓会
費納入者)で、応募者一律に一万円を補助するもの
です。経費は同窓会「特別会計」の「研究助成金」
より支出しております。

研究補助費の明細、研究実践報告は義務づけては
おりませんが、その年度ごとに、応募者・研究テ
ーマ等の一覧を「会報」「ホームページ」に掲載して
おります。

応募希望者は所定の様式(「研究補助願及び研究
概要」)にしたがって、同窓会事務局(千三八〇―
八五四四 長野市西長野六―ロ)に申し込み下さ
い。当該年度の十一月末日を応募締め切りとして
います。

研究補助は十名までとなっておりますので、お申
し込みの際には必ず事務局までお問合せ下さい。
応募規定などの詳細は、同窓会ホームページをご覧
いただければ、申請の手順等の説明が掲載されてい
るほか、各種パソコン・ソフトに対応した所定の申
請様式がダウンロードできます。同窓会ホームペ
ージ・アドレスは本会報最終ページの事務局便りの欄
でご確認下さい。

なお、同窓会事務局への問い合わせの際のお電話

は、本会報の表紙ページの番号をご利用下さい。
次に掲げたのは、平成十六年度における補助金交
付者並びに研究テーマに関する一覧です。これらを
参考にしていただき、積極的な応募をお待ちして
おります。

氏名	所属	研究テーマ
① 新井清規	長野県長野 養護学校	カブト虫の幼虫を教材化した 時の生徒の学びの姿
② 矢口紘史	千曲市立更 埴西中学校	河川に分布する礫からの岩石 標本の作成
③ 阿部貴子	岡谷市立川 岸小学校	子どもの願いを大切に、活 動を通してよりよい人間関係を 生み出す生活科の支援のあり方
④ 原 孝壽	飯田市立千 代小学校	学校自己評価の実践的研究
⑤ 岡田泰輔	木島平村立 木島平中学 校	心の弱さを克服して、友との よりよい関係を築ける生徒の育 成
⑥ 清水芳江	長野市立松 ヶ丘小学校	放課後学習チャーター活動の 実践
⑦ 北沢克敏	長野市立通 明小学校	『聞き合い』を生かした道徳 の時間のあり方
⑧ 直井義和	佐久市立春 日小学校	「学び」のある授業への改善 方法の研究
⑨ 田畑孝宏	阿智村立阿 智第二小学 校	長野県内におけるブッポウソ ウの繁殖分布
⑩ 櫻井清志	長野市立徳 間小学校	「仕事」をテーマにした総合 的な学習の実践

学校における各教科の授業実践を直接対象にした
教育研究はもとより、その土台となる教材・教具の
開発や工夫に関するテーマも包み込んでいます。ま
たさらに学校におけるより広い諸活動や学校環境に
関わる内容も視野に入れていきます。

僅かな金額ではありますが、気軽にご連絡いただ
きたいと考えております。(教育学部同窓会事務局)

● 自著を語る

『子どもが育つ心理援助』
〜教育現場でいきるこころのケア〜

新曜社・二〇〇二年

(岡田康伸・京都大学大学院教授監修)

東城久夫 著 (前白田小学校長 第十五回生)



「本を書いてみたい」と考えたのは、今から六年程前、長野市の山王小学校に勤務していた時のことです。別に何かきっかけがあつたり、伝えねばならない使命感のようなものがあつたりした訳ではありません。動機について説明するなら「気持ち突然湧いてきて」というのが一番近いように思います。

その年のある日、原稿を書き始めて一カ月半程度書き終えてしまったという感じだったでしょうか。教員生活の終了を残り数年に控えて、それまで心に溜め込んでおいた思いが一旦に噴き出したかのようでした。ただひたすら書き綴った文章なので、編集者は苦労されたことでしょう。

そういう事ですから、初めから出版計画があり、引き受けてくれる出版社があつたわけでもありません。出来上がった原稿を、心理臨床の二十年來の私の師匠である岡田氏に見て頂き意見を伺つたところ「おもしろい！」の一言で、受けてくれる出版社を探すことになりました。出版するまでいろいろな経緯がありましたが、最終的に新曜社の津田編集長の目にとまり陽の目を見ることになりました。

岡田氏が、前書きの冒頭に「本書は、長年にわたる学校現場での経験から『子どもの育ち』という視



点で教育と心理臨床の接点を探ろうとする試みである。」と書いてくれています。一教師として私自身が、「学校教育現場で日々起る子どもの問題となる

事象をどのように捉えて対処しようとしてきたのか」として、「どのような教師として子どもたちの前に立とうとしてきたのか」を綴つたつもりです。恥ずかしい気持ちもありますが、素直に書かないと分かつて頂けませんので、あえて書かせて頂きましたが、『私の目』というのには、「教育現場で培った目」と心理臨床の現場で培った『目』の『二つの目』で子どもたちをどのように見てきたか」ということになるように思います。

大学を卒業後、教壇に立ち、その後幸運にも臨床心理について学ぶ機会を得て、専門機関で臨床体験を積む事が出来ました。この『二つの目』から見えてきた「教育と子どもの育ち」について本書の中に思いを語らせて頂きました。

本書の第一章は、『ファンタジーを生きる』と題して「ピノキオ」のお話が書いてあります。ご存知かと思いますが、操り人形が青年になっていく物語です。私は、ピノキオのお話にとっても入れ込んでいました。と言うのも、ある時、ある養護学校で、不登校の子どもたちが演ずるピノキオの劇を見ました。それは、子どもたち自身が選択し脚色したものであったのです。その劇からは、「人形から私という人間になるための旅」と言うメッセージを強く感じました。その後、「私、人形はやめたんです。」と宣言して女暴走族の結成に奔走した中学生にも出会うことになりました。そこにも「ピノキオから人間への旅」をする子どもの姿を見たのです。

子どもたちの劇を見たり、言葉を聞いたり、描画を見たり、問題となる行動と出会つたりする時、臨床の『目』から捉えた時、それがどのように見えてくるのか、そこから教育現場での指導にどのように立ち上げていけば良いのか等、言葉にして記述したように思います。

教育現場は、矢継ぎ早な教育改革の嵐の時代に翻弄されようとしています。教員評価制度の導入は、評価による教師のピノキオ化、企業的競争原理の教育への導入は、『人のモノ(扱い)化』を促進することでしょう。

現場教師として「モノを言わねばならない時」が来ているタイミングに、ささやかな『声』を発することが出来たのかなと思つてもいます。

学部の多様な同窓会・同窓会員の情報募集

我が学部の同窓会報も来年には二〇号を数えることとなります。これまでの編集に携わつてこられた幹事の方々の労を大いにねぎらいたいと思います。

この十数年の間は、大学院新設、学部新課程設置、教員養成課程縮減・改組、学部五〇周年記念、国立大学法人化などにより、教育学部の動向・近況についての内容が紙面の多くを占めてきているように感じます。

ただし、母校の状況をお伝えすることも念頭におきながらも、より多く、同窓生の多様な活動や活躍について紙幅を使っていきたいと考えております。

そこで、同窓生の卒業後の貴重な仕事や文化的活動等々の情報について、また卒業学年、サークル、研究室などのOB会・同級会の活動等については是非情報をご提供ください。学部同窓会事務局へお電話・メールをいただけますと幸いです。

(同窓会事務局・編集幹事)

就職状況

就職委員長 市澤要三

教員採用に関しては、十余年にわたり「少子化」のもとに新規採用が押さえられてきましたが、ここにて文部科学省は、二つの方針を出してきまし...

この二件は教員養成学部には朗報と言えますが、信大においては、樂觀できないところがあります。長野県ではすでに少人数学級を進めてきているところから、大幅な増員は望めないからです。...

平成16年度卒業生・修了生 進路状況

平成17年3月31日現在

Table with columns for '就職・進路別' (Job/Path), '就業者' (Employed), '進路' (Path), and '備考' (Remarks). Rows include '学部' (Faculty) and '学部' (Department) categories with various course details.

(注) ()は臨探で内数、○は外国人留学生で内数

就職率(学部) 89.41% (進学者を除く)
教員就職率(学部) 74.15% (進学者を除く)
教員養成課程卒業生に対する教員就職率 67.36%

信州大学教育学部同窓会

第十八回通常総会(通知)

日時
平成17年8月11日(木)
午前10時より

会場
長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事
第一号議案 平成16年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
第二号議案 平成17年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
第三号議案 役員人事について(第十期)
新会長挨拶
新役員推薦と委嘱
6. 来賓祝辞・代表挨拶
7. 閉会宣言

記念講演会: 12時より
講師: 赤羽貞幸

祝賀懇親会: 13時より

記念講演(一般公開)

法人化された信州大学

その現状と課題

信州大学教育学部部長

赤羽貞幸氏



大学は法人化によりどう変わり、またどう変わっていくか、当初より法人化に係わってきた一人として、その現状と課題を整理してみました。

大学の建物や教職員・学生は、従来と見かけ上変わりなく、外からは法人化になってどう変わったのかわかりにくいのが現状です。しかし、大学の運営組織、財政的基盤、教職員の勤務と法的規制、大学の目標と使命、学生の教育充実等いふん変わり、また変わろうとしております。これら大学・学部の新しい現状をご理解願えればと思っております。

プロフィール

一九四六年 長野県上伊那郡辰野町生まれ
一九六九年 信州大学教育学部中学校課程卒業
一九七一年 金沢大学大学院理学研究科修了
一九七二年 長野県大田市立大町小学校勤務
一九七三年 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設勤務

一九八〇年 理学博士(名古屋大)
一九九九年 信州大学教授(教育学部)
二〇〇一年 附属松本小学校長併任
二〇〇二年 信州大学評議員・学部長補佐併任
二〇〇三年 信州大学教育学部部長、現在に至る

【研究テーマ】

①大地の形成過程を明らかにする地質構造発達史の研究、②長野盆地や飯山盆地などの内陸盆地の形成史に関する研究、③氷河時代の自然環境の復元に關する研究(野尻湖発掘等)、④地域地質学を基礎にした防災問題や環境問題に関する研究。

【主な著書】

「野尻湖における最終氷期の編年」地団研専報。

「善光寺地震と山崩れ」。「信州の4億年」郷土出版。「新版地学事典」平凡社。「日本史事典」朝倉書店。「善光寺地震に学ぶ」信濃毎日新聞社。「長野の大地」見どころ一〇〇選」ほおずき書籍、など。

事務局便り

○研究補助受付中

教育研究補助申請を四月より受け付けております。多くの皆様の申請をお待ちしております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

○住所変更を忘れずに

転居の際には住所変更の届を事務局宛にお願い致します。お送りした会報が宛先不明で多く戻ってまいります。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会の会費は終身会費です。会報が夏の総会前(七月)にお手元に届いた方は納入済みです。二重払いされた会費はお返ししますが、振り込み手数料等が引かれますの全額返金できません。

○名簿発行案内について

某出版社より「信州大学教育学部同窓名鑑」発行についてのハガキが卒業生に来ておりますが、教育学部同窓会とは何の関係もありません。



http://taaedu.shinshu-u.ac.jp
Email:kdousou@gipnc.shinshu-u.ac.jp

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいませようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。